



平成16年度第6回青森県理学療法士会理事会議事録要約

日時：平成17年1月22日（土）午後1時30分～4時30分

場所：青森県立保健大学

出席者：伊藤和夫、小村博、相馬光明、澤田隆憲、佐藤比呂子、山谷光仁、後藤明教
山田伸、李相潤

案件：

1. 第29回青森県理学療法士学会について

1) プログラムの確認

総会の前に、日韓協定書の調印を行う予定とする。

2) 学生ボランティアの依頼

上十三地区は、会員が少ないので、東北メディカル学院の学生10名位にお手伝いをお願いする。

3) PT養成校の学生の演題発表について

学会長より、新しい試みとして学生の演題発表を取り入れたいとの意向があり、演題数を限って学会最後のセクションに組み込むことを了承した。これについては、学会時にアンケート調査を行い、今後の取扱いを決める。

2. 韓国水原市物理治療士会との交流について

1) 県士会学会時には、3演題の発表が行われる。

2) 来青人数および詳しい日程がはっきりしていないので、早急に連絡をとる。

3) 通訳を依頼する。

3. 各部局報告

1) 事務局

・会費未納者が、まだ15名いるので督促を行う。

2) 学術局

・平成17年2月5日に、第4回研修会を県立保健大学で開催する。

テーマ1「投球障害の評価と治療のポイント」

テーマ2「前十字靭帯損傷の評価と治療のポイント」

・理学療法研究の「メディカルオンライン」への参画。

平成17年4月運用予定。

3) 社会局

・介護保険関連研修会へ部員を参加させ、情報を収集。

4) 表彰委員会

・学術奨励賞、功労賞および日本理学療法士協会協会長候補者の選考を行った結果を報告。

学術奨励賞は該当者（1個人および1グループ）あり、士会学会時に表彰する。

第29回青森県理学療法士学会について（お知らせ）

学 会 長 山谷 光仁
準備委員長 村上三四郎

前略

第29回青森県理学療法士学会の2日目に予定されている公開講座のテーマが変更になりましたのでお知らせいたします。学会参加費についての記載が漏れていたため追加します。このことについて問い合わせがありましたら下記までお願いします。

草々

変更

変更前テーマ 「歴史に学ぶ健康と障害 - そして生活支援」
変更後テーマ 「健康の見直しと障害予防の大切さ」

追加

学会参加費 1,000円

尚、学会初日3/12の宿泊先ですが、三沢シティホテル 電話0176-52-7777 で予約時に青森県理学療法士会会員と言うと朝食付税込み6,825円で宿泊可能です。数に限りがあるのでお早めにとのことです。

問い合わせ先
三沢市立三沢病院リハビリテーション科
村上三四郎
〒033-0001 三沢市中央4-1-10
misawahpriha@yahoo.co.jp

—懇親会のお知らせ—

三沢市立三沢病院 村上 三四郎

第29回青森県理学療法士学会1日目の終了後、懇親会を開催いたします。今回は韓国の水原市物理療法士会のみなさまも参加予定となっております。貴重な国際交流の場となりますので、多数のご参加をお待ちしています。

場 所：きざん三沢
*学会終了後、会場より送迎バスが出ます。
時 間：18:30～
会 費：5000円

出席予定の方は施設名、参加者氏名を明記の上、2月25日（金）までに、E-mail、電話、FAXのいずれかで下記までご連絡ください。また、**送迎バスを利用しない方は連絡お願いいたします。**

三沢市立病院 二本柳
E-mail: yanagi5209@yahoo.co.jp
T E L: 0176 - 53 - 2161(内線321)
F A X: 0176 - 52 - 6023

平成16年度定期総会告示

平成17年2月12日

会員各位 殿

青森県理学療法士会
会長 伊藤 和夫

士会定款第16条及び17条により、平成16年度定期総会を下記の通り開催
します。

記

日 時：平成17年3月12日（土） 15：30～18：00
場 所：三沢市公会堂 小ホール
三沢市桜町1丁目6番35号
TEL 0176-53-8711

議案

- | | | | |
|-------|-----------------|-------|------------|
| 第1号議案 | 平成16年度事業報告 | 第6号議案 | 協会代議員会提出議案 |
| 第2号議案 | 平成16年度会計・監査報告 | 第7号議案 | 協会代議員選出 |
| 第3号議案 | 平成16年度会計・資産監査報告 | 第8号議案 | 東北ブロック理事選出 |
| 第4号議案 | 平成17年度事業計画・予算案 | 第9号議案 | その他 |
| 第5号議案 | 役員改選 | | |

総会は、会員の1/2以上の出席を得なければ成立しません。そのため、出席できない場合は、必ず委任状をご提出願います。同封のハガキの委任状をご利用下さい。尚、複数会員の所属する施設におきましては、1人でも総会に出席する方がいらっしゃる場合には、出席される方に委任状を委託し、総会当日に提出して頂きますようお願い申し上げます。

総会資料（後日送付予定）は、総会当日に持参して下さい。

選挙管理委員会からのお知らせ

青森県理学療法士会
選挙管理委員会
委員長 向山 勇一

任期満了に伴う青森県理学療法士会役員の立候補を受け付けたところ、立候補の届出がありましたのでお知らせ致します。選挙は3月12日の定期総会時に行います（当日投票、即日開票）。なお、候補者が役員の定数の範囲内でしたので、信任投票となります。立候補者及び立候補の趣旨は以下の通りです。

1:会長候補者(定数1名)

伊藤 和夫 昭和29年3月15日生
青森保健生活協同組合あおもり協立病院勤務

当初は一期のみということでお引き受け致しましたが、今回で三期目となります。そろそろバトンタッチをと考えているのですが、現理事会からも依頼され立候補することといたしました。振り返ってこの四年間は従来の継続が主で、目新しいことは少なかったように考えます。維持、継続も必要ですが、もう少し士会活動が拡大しないものかと日々思索しております。会員数が増大する一方で研究発表が減少するという現象は、憂慮にたえません。量の時代がすぐそこまで来ています。いつの時代でも、どんな社会においても対応できる技術、理論が求められています。研修、研鑽を会員個人、職場そして士会で推し進め、全体の向上を図る必要があります。同時に当組織としても今後の会員数増加体制を検討しなくてはなりません。これからも皆様方のご協力をお願い申し上げます。

2:理事候補者(定数8名以上12名以内)

中村 正直 昭和33年3月24日生
労働者健康福祉機構青森労災病院勤務

これまで社会局を4年やってきました。保健・福祉に関して、現在日本理学療法士協会では医療保険部と介護保険部を設け対処しております。当県士会社会局は現在介護保険についてはほとんど活動がない状態です。今後介護保険関連について力を入れてゆこうと思っており立候補しました。

小村 博 昭和35年10月3日生
重度身体障害者更生援護施設津麦園勤務

理事として今後2年間、皆様とともに活動してまいりたいと存じます。ご指導よろしくお願い致します。会員の福利厚生面の向上が必要と考えております。

澤田 隆憲 昭和34年2月1日生
鱒ヶ沢町立中央病院勤務

理事として4年2期務めてきました。その間、主に社会局保健福祉部と法人化推進委員を担当してきました。

保健福祉部では、平成18年度の介護保険制度見直しに向けての情報を収集し、士会ホームページなどを利用し士会員に提供したいと考えています。

また、日本理学療法士協会主催の「介護予防に関する理学療法士のための研修会」に士会員を派遣し、伝達講習等を開催するなど介護予防事業に積極的に取り組みます。

法人化に関しては、国が「公益法人制度改革」を検討中であることから、慎重な対応が必要であると考えます。

山谷 光仁 昭和38年7月20日生

十和田市立中央病院勤務

2年間理事を務めてまいりましたが、あまり会員の皆様のお役に立てなかったように思います。特に今年の学会の準備では、個人的な理由で準備委員の皆様にはご迷惑をおかけ致しました。所属する外交局においても目立つ活動がありませんでしたが、現在進めているものがいくつか残っており、それらを終了させたいと思っております。そのためにも、もう2年間だけ理事として頑張りたいと思っておりますので、よろしくお願い申し上げます。

相馬 光明 昭和34年5月18日生

むつ総合病院勤務

保健・医療・福祉環境がめまぐるしく変化する中、「超高齢化社会」の入り口といわれる2015年問題を10年後に控え、その第一弾として平成18年には介護保険の抜本の見直し、診療・介護報酬の同時改訂が予定され、我々理学療法士の方向性と、ニーズの多様化への対応がまさしく問われる時期を迎えようとしています。

一方、県士会も400人さらには500人体制を目前に控え、さらなる組織強化・連携を図り、社会的ニーズ、会員ニーズへの対応の具体的指針の策定と行動が必要になってきております。

この重大局面を迎えるにあたり、課題解決に向け微力ながらお手伝いして参りたいと思っております。

佐藤 比呂子 昭和36年12月21日生

(医)ときわ会ときわ会病院勤務

2期に渡り事務局を担当させていただきました。近年通信手段の発達に伴い、事務処理を行うための工夫とシステム作りが必要となってまいりました。今後事務局の業務を再編するために、微力ながら士会へ貢献したいと思ひ立候補いたします。

後藤 明教 昭和35年6月22日生

黒石市国民健康保険黒石病院勤務

私は、この2年間、理事として事務局を担当して参りました。ここ数年で士会員数も急激に増加し300名を超えました。今年の養成校入学定員は8000名を数え、今後、会員の増加は更に加速するものと思われております。また、保険・医療・福祉をとりまく環境も急激に変化してきており、職能団体としての対応もますます重要になってくることと思ひます。いろいろ課題はありますが、皆様のご協力を得て士会活動に貢献できればと考え理事に立候補致します。よろしくお願い致します。

川口 徹 昭和35年6月28日生

青森県立保健大学勤務

平成15年から青森県理学療法士会の副会長として会長の補佐をしてきましたが、当士会が抱える問題は多く、特に自分がテーマとした、「一般青森県民に対する理学療法の啓蒙活動の推進」におきましては、活動が不十分であったと考えます。このことを反省材料とし、次年度の優先課題として取り組むべく理事に立候補しました。

副会長として、青森県理学療法士会全体をみながら、一般青森県民に理学療法を広く浸透させたいと希望しております。さらに、次年度から次々年度は東北ブロック協議会の当番年度であり、青森県理学療法士会の会長が東北ブロック協議会長を兼ねることになります。東北ブロック協議会が円滑に運営されるように、会長を補佐していこうと考えております。皆さんの温かいご支援をよろしくお願い致します。

村上 三四郎 昭和48年9月4日生

三沢市立三沢病院勤務

2年間監事として青森県理学療法士の業務に携わらせていただき、今回は理事に立候補しました。若輩者ですが新しい視線で士会を見つめ、今まで諸先輩方が築き上げてきた士会が更なる発展を遂げられるように、尽力していきたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

3: 監事候補者(定数2名)

山田 伸 昭和38年1月4日生

青森県立中央病院勤務

これまで3期6年にわたり青森県士会の監事を務めて参りました。青森県士会も士会員数300名を超えるまでに発展してまいりましたが、その反面、組織として運営していく上での問題も増えてきていると感じております。これまでの経験を生かし、微力ではありますが青森県士会の運営にお手伝いを致したいと考えております。

三浦 時男 昭和15年10月21日生

身体障害者更正施設あかまつ園勤務

青森県士会発足時、庶務会計や監事をしてきた経験と東北ブロック協議会監事13年間の経験から、この度初心にかえって監事に立候補致し、士会の皆様にお役に立ちたいと思っております。

～ ザンジバル奮闘記～

弘前大学医学部 保健学科理学療法学専攻 若山 佐一

2005年7月で2年間の任期が終了する鶴田町出身の瓜田さんですが、今回はCBRについてのレポートです。交通機関に乏しい地域での活動の様子が垣間見えるでしょうか。

ところで、イスラム圏であるタンザニア、ザンジバルの年末年始の様子をメールで聞いたところ、2003-2004年はサファリ、2004-2005年はキリマンジャロ登山だそうで現地の年末年始の様子は体験していないとのことでした。アフリカならではの年末年始のレジャーですね。うらやましー！！次はキリマンジャロ登山の様子をレポートしてもらいましょうかね。

～ ザンジバル通信 Part ～

瓜田 一貴

こんにちは、お元気ですか？そちらではそろそろ冬の足音と共に、暮れの慌しさもでてくる頃でしょうか。逆にタンザニアはこれからが夏本番という感じで数ヶ月前に比べ、陽射しが強くなってきました。そんな暑さが徐々に厳しくなりつつあるザンジバルからお便りをお届けします。

さて、今回は病院外の活動である地方巡回のことに紹介しようと思っております。

前回も少し記載したのですが、地方巡回はザンジバル障害者協会(UWZ)と共に実施しており、巡回の際はCBRワーカー、精神病院のスタッフ、眼科の医師、理学療法士、作業療法士の4~7人のチームで各地区・村を巡回しています。訪れる予定の地域には、日々巡回しているCBRワーカーやその地域に住むUWZに属するボランティアによって、巡回日時が地域住民に知らされています。その日訪れる場所の

中心地（例えば集会所、学校、時には木陰など）に、身体に障害のある人々が集まって来て、多いときは10～20人、少ない時は5人程の時もあります。ただ、時折連絡が行き届いてなくて、その日目的地に着いてからその村や部落周辺に知らされ、それから人々が集まってくるといったこともあります。そのような時は1時間や2時間待ったりすることもあります。巡回で訪れる地方や田舎の方では、依然として赤土の凸凹の未舗装道路が当たり前で、電話といったような通信手段もあるわけではなく、連絡はすべて人伝いです。田舎の方へ行けば尚更、交通や通信が不便です。そのような事情をふまえれば、連絡の不備は仕方のないことかな?!と思え、初めの頃ほど、待つことに苦痛を感じなくなりました。いや、今では逆にそれに慣れていて自分にふと気づくことがあります（このペースだと日本帰ってから大変そうです・・・）。

そこでの僕の仕事としては、主にそこを訪れてきた身体に障害を持つ人々へのアドバイスです。例えば、片麻痺の障害者に対しては、麻痺側の運動の仕方や生活上での使いやすい方法や体の動かしやすい方法の指導であり、障害児に対して親への発達指導や介助指導といったことです。また、病院で詳細な検査が必要であったり、装具の適応の可能性がある場合などは病院を訪れることを薦めたりもします。

地方や田舎の方では、街へ出るための交通手段の確保、またはその際の料金の支払いが難しかったり、病気・障害の基礎的な知識が低いといった問題（障害を持った子供は、悪魔にとりつかれたといっって、家に隔離されていたり、骨折の可能性があるのに数ヶ月もほったらかし、もしくはむやみに引っ張るなどの誤った治療がなされていたりなど）があつたりします。そのため、こういった田舎の方では、街に比べ、適切な治療が得られず、身体的な障害を持っている人を多く見かけます。それでも、下肢に麻痺・変形の障害が残っていても元気に走り回ったり、サッカーをしている子供に出会ったりすると、つくづく人々の逞しさをみせられると同時に、何もできない自分の無力さを痛切に感じさせられます。そんな地方巡回、伝わったでしょうか?!今回はこれにてTutaonana!

人工呼吸器セミナー 「VCTM in 八戸」に参加して

シルバー病院 川口恵理

去る平成 17 年 1 月 15 日に八戸市立市民病院講堂にて人工呼吸器セミナーが開催されました。VCTM は Ventilatory Care Technical Meeting の略で、2001 年に東京で発足したグループであり、今回、東北地方で初めて勉強会を開催することとなりました。当日は、230 名を越える医療関係者が参加し、臨床工学技士・看護師・医師が大多数を占め、他、理学療法士・作業療法士が数名参加していました。講師は順天堂大学病院の臨床工学技士の先生で、講義内容は PCV 呼吸管理・ウィーニング指標・加温加湿に関するものでした。全体で 4 時間に渡る講義で、聞き慣れない用語や、初めて知ることもありましたが、客観的な数値や臨床的な経験も含めての講義でした。

今回、私が参加した目的は、普段の業務で呼吸理学療法処方を受け、人工呼吸器を使用している患者様にも関わっているのですが、人工呼吸器を使用している患者様について、その設定や状態変動等を本当に理解できているのか確認し再学習することです。加えて、これまで各地の呼吸理学療法の研修会に参加しましたが、人工呼吸器等に関する講習が含まれていないことが多いため、一度しっかり聞きたいと思っていました。また、日本呼吸管理学会で海外で呼吸療法士として活躍されている先生の講演を聴き、現在の世界・日本の呼吸器管理がどういった方向に進んでいるのかを知りたかったことも参加の理由です。

セミナーに参加して、日本の大部分での人工呼吸管理は一回換気量を設定して肺に送り込む VCV で行われているが、首都圏では徐々に圧により肺を拡張させて換気する PCV での管理に切り替えており、海外ではすでに PCV が主流になっていることや、その背景や科学的根拠を知ることができ、大変充実した勉強会でした。同時に、人工呼吸器の設定や表示されている数値から患者像を理解するには、まだまだ自分の知識が大きく不足していることもあらためて知りました。

臨床現場で、理学療法士が直接的に人工呼吸器の設定を変更することはありませんが、人工呼吸器を使用しての生活・動作や、QOL の向上に関わる職種として、患者様の生命維持を援助している機器の特性や設定状態をもっと理解して今後の業務に生かせればと思っています。

「痴呆」に替わる用語について

厚生労働省老健局

標記については、痴呆に対する誤解や偏見の解消を図る一環として、「『痴呆』に替わる用語に関する検討会」（座長：高久史磨（日本自治医科大学長・日本医学会長））開催し、本年 6 月以降ご検討頂いてきたところですが、本日、一般的な用語や行政用語としての「痴呆」について、

- ・「痴呆」という用語は、侮辱的な表現である上に「痴呆」の実態を正確に表しておらず、早期発見、早期診断などの取り組みの支障となっていることから、できるだけ速やかに変更すべきである。
- ・新たな用語としては、「認知症」が最も適当である。

等を内容とする報告書がとりまとめられました。（別添）

本報告を踏まえ、厚生労働省としては、次のとおり対応することとしています。

行政用語としては、本日（平成 16 年 12 月 24 日）以降、「認知症」を用いる。（用語例参照）

一般的な用語について、「認知症」を使用していただくよう、本日付けで関係機関等に協力依

頼を行う。

法律上の用語については、次期通常国会提出予定の介護保険法関連の改正の中で変更することを検討する。

なお、医学上の用語としては引き続き、「痴呆」が使用される予定（使用例）：「アルツハイマー型痴呆」、「血管性痴呆」）であり、運用面において齟齬をきたさないよう留意する。

各都道府県などにおかれても、本趣旨にご理解をいただき、「認知症」の行政用語としての使用についてご協力いただくとともに、管下市区町村、関係団体等への周知についてご配慮願います。

用 語 例

- | | |
|-------------------|---------------------|
| ・ 「痴呆」 | 「認知症」 |
| ・ 「痴呆症高齢者」 | 「認知症の高齢者」又は「認知症高齢者」 |
| ・ 「痴呆の状態にある高齢者」 | 「認知症の高齢者」 |
| ・ 「痴呆症高齢者グループホーム」 | 「認知症高齢者グループホーム」 |

なお、当面（年度内目途）は、「認知症（痴呆）」として用いる場合もある。

法律上の用語については、次期通常国会提出予定の介護保険法関連の法改正の中で変更することを検討する。また、省令等の下位法令における用語については、法律上の用語の変更と併せて変更する予定。

【勉強会・研修会のご案内】

士会医療保険部より研修会のご案内

国民健康保険百石病院 板井 英樹

< 東京都士会・日本理学療法士協会共催研修会および東京都士会総会 >

1, 日時；平成 17 年 3 月 12 日（土） 午後 2 時より

2, 場所；東京医科歯科大学病院 5 階症例検討室

3, 内容：

午後 2 時～ 3 時 「今後の医療保険制度のあり方」

- 理学療法に焦点をあてて -

講師；厚生労働省保険局医療課長 麦谷 眞里 先生

司会；日本理学療法士協会副会長 日下 隆一 先生

午後 3 時 20 分～ 4 時 「診療報酬に対する協会・士会の取り組み」

講師；日本理学療法士協会職能局保険部

東京都理学療法士会渉外局保険部長 千葉 哲也 先生

司会；東京都理学療法士会渉外局長 福光 英彦 先生

問い合わせ先：職能局 医療保険部 山本 康稔

e-mail：yamamoto@angelcourt.or.jp

TEL：0426-51-5331

〒 193-0811 東京都八王子市上壱分方町 5 0 - 1

東京天使病院 リハビリテーション科

日本関節運動学的アプローチ（AKA）医学会 第9回北海道・東北地域研修会のご案内

- 【期 日】2005年3月27日（日） 9：30～15：00
【会 場】ユートリー（八戸地域地場産業振興センター）
JR八戸駅下車、徒歩約3分
【受講対象者】医師、PT、OT、STのみ
【参加費】日本AKA医学会会員 12,000円
日本AKA研究会理学療法士会会員 12,000円
非会員 15,000円
【参加人数】約30名
【指導者】日本AKA医学会指導医・専門医
【研修会事務局】〒185-0012 東京都国分寺市本町4-12-14
三多摩医療生協・国分寺診療所 佐藤 文秀
電話042-325-0766
Fax042-325-2663
Mail: kokushin-2@jcom.home.ne.jp
【申込方法】研修会事務局へ郵送・FAXまたはE-mail(申込用紙は県土会事務局へ請求)
【締め切り】2月末（定員になり次第受付終了）
【プログラム案】
9：00 受付開始
9：30 開 会
AKA - 博田法についての若干の講義
実技講習（仙腸関節）
12：00 - 昼 食 -
13：00 実技講習（仙腸関節、椎間関節、肋椎関節、肩鎖関節、胸鎖関節、胸肋関節）
構成運動
15：00 閉 会

～ 理学療法士求人情報～

独立行政法人国立病院機構 八戸病院

募集職種・人員：理学療法士 1名
待遇：国立病院機構職員給与規程による（詳細は面接にて）
問合せ先：独立行政法人国立病院機構 八戸病院
〒031-0003
八戸市吹上三丁目 13-1
TEL：(0178)45-6111 FAX：0178-43-7814
担当：庶務班長 田中

【財務部通信】

会費自動引き落とし者へ

平成 16 年度の自動引き落としが 5月27日(木)に行われました。下記へ振り込みをお願いします。
柳 郁子、大塚 聖子、桜庭 麗香、菊池 宏充、山下 奈津子

会費自動引き落とし以外者へ

下記へ振り込みをお願いします(1月27日現在)

栗林 輝生、柳谷 誠、中野 のぞみ、樋口 亜絹子、
三浦 純子(12,000円のみ)、岩井 和広、大久保千明、伊藤紗岐子、佐々木千賀子

会費納入方法は下記の通りです。

士会費 12,000 円の振込先 振込み手数料 210 円

みちのく銀行 黒石支店 店番 024 口座番号 0117013
名義名 青森県理学療法士会 代表者 佐藤 洋

協会費 11,000 円の振込先 振込み手数料 120 円

郵便振替で 口座番号 00130-3-78642
加入者名 社団法人 日本理学療法士協会

通信欄に

記入例 [平成16年度会費 1名分 佐藤洋 8692] 協会会員番号
と記入して下さい。払込人住所氏名は、施設名の住所氏名で結構です。

【ニュース編集部通信】

次回の原稿締切は、平成17年2月22日(火曜日)です。
原稿を依頼された方、もしくは掲載記事をお持ちの方は、次頁の各支部担当に
フロッピーディスク、FAX、E-mail のいずれかにて、送付して下さい。

青森県士会ホームページアドレス

<http://www.aa.alpha-net.ne.jp/ptaomori/>

§ ニュース編集部支部担当者 §

東青・むつ下北：工藤 寛教(あおもり協立病院)

〒030-0847 青森市東大野2丁目1番地10号

TEL 017-762-5500 FAX017-729-3260

E-mail: celeste_urg1@mail.goo.ne.jp

(電話・FAXは病院、メールアドレスは工藤先生個人のもので、ご注意ください。)

三八・上十三：川口 恵理(シルバー病院)

〒039-1161 八戸市河原木字八太郎山10-444 TEL 0178-28-4000 FAX 0178-20-4962

E-mail: ptsilver4000@yahoo.co.jp

(リハ科全体のアドレスのため、本文中に宛名が必要)

